

山形の農業土木

No. 119・120号／合併号



CONTENTS

農業農村整備に思うこと	農村水産部 佐々木芳一
大過なく！ではなかった	農上総合支庁農村整備課 芳賀 洋二
農村アメニティ・コンクールとは？	
—21世紀土地改良区創造運動の取り組み—	
「田んぼの学校」一年間を振り返って	新庄農土地改良区（水士部ネット新庄部）理事長 小口 祐一
「自然環境について思うこと」	西川町大村沢在住 武笠てる子
堆肥化施設の性能発注事例	農林総合支庁西川町農村整備課 本村 昭二
ため池ヘドロを有効利用した新しいため池改修工法による 虎古沢ため池堤体改修施工事例	農林総合支庁農村整備課 渡部 一樹
山形五環（管環）を見て、歩いて、きれいにしよう！～本庁・土地連ブロック厚生事業～	担当幹事一同

「自然環境について思うこと」

西川町大井沢在住

武浪てる子

私たち家族は、平成13年度に神奈川から私の生まれ故郷であるこの山形に引っ越してきました。

美しいこの山形の自然環境に包まれながら、趣味を兼ねた日々の生活を毎日楽しんでいます。



この数十年間、東京と山形を行き来する中で、以前からいろいろな市・町・村の変わり方がいつも気になっていました。

田んぼだったところに、新しい施設や都会の分譲地と変わらない住宅団地が出来たり、必要以上の道路が出来たりと、自然環境を考慮しないで作っているように見受けられます。



地方にはすばらしい自然環境があふれているのに、その利用が少なすぎると思います。

特に、公園とか施設の建物以外のアプローチやバックヤードの作り方。それに、せっかくの自然の樹木を切って、そこに元々無かった木を植えたり、アスファルトにしてみたりと。土の部分が少なく

なったことも「温暖化」の大きな原因の1つとも考えられるのではないのでしょうか。それぞれの市町村が自慢できる、自然環境を利用した町づくり・施設作りをしてはとつねづね思います。

これから新しい団地を作る時、公園がらみのクラインガルデン（注1）、ドイツの方では一般的な市民農園、美的環境を考慮した野菜と花を育てるように区画して、新しい空間作りをしています。

日本でもこのような公園作りを考えたらうでで少しでも毎日の生活が楽しめる様にしたらと思います。

地方にはいろいろな川があり、それが景色の一部だったことが遠い昔の様な気がしてなりません。



車と人間に都合のいいように環境にフタをしてしまったようです。そのフタをもう一度取り外して環境を生きかえらせることはできないものでしょうか？

きれいな環境と、そこに住む昆虫や植物は、次の世代に残したい財産の一つだと思います。

以下の文章は英国王立園芸協会日本支部会報No.140から引用したものです。
今後の武浪さんの生き方を日本支部の編集者がインタビューしたものです。

ウッドランド・ガーデン

月山と朝日連峰に囲まれた山あいの町、山形県西川町大井沢。この地に2,400坪のプライベート・ガーデン「ミスト・ガーデン」が生まれました。オーナーは、長年植物関係の仕事に携わってきた武浪てる子さん。

ガーデンデザインをはじめとして、さまざまな分野で20年以上も植物と関わってきた武浪さんは、「いずれは故郷の山形で、植物に囲まれて暮らしたい」という夢をあため続けてきました。4年前から雑木林を造成し、家を建て、こつこつと庭づくりを始め、平成13年の10月にミスト・ガーデンとして一般公開に踏み切ったのです。



ミスト・ガーデンは、雑木林のスペースと開けた芝生のスペースに分かれています。

特徴的なのは雑木林のスペース。「この辺りは雑木林が伐採されつつあります。わずかに残ってたこの雑木林を手に入れたのはラッキーでした。すべてが人工的に作られた庭にはしなくなかったのです。日本の美しい自然の風景を、庭という形で少しでも残していくことができたなら、と考えました」という武浪さんの言葉通り、ここでは大井沢の自生植物が非常に多く見られます。



造成前はササやシダ類、低木で樹林下は鬱蒼としていましたが、これらを刈り取ることでミズバショウ、ザゼンソウ、リュウキンカなどが殖えはじめ、今では5月になるとミズバショウの群落の中にザゼンソウがあちこちで顔を出す、という風景が見られるまでになりました。「6月にはムラサキヤシオツツジが紫がかったピンクの花を一斉に咲かせて、本当にきれいですよ」と武浪さんは顔を綻ばせます。

他にもカタクリ、ツルリンドウ、ヒメユリ、ショウショウバカマ、キクザキイチリンソウ、マイヅルソウなど、じつに多くの野生植物が自生しています。



地元の大井沢自然博物館の学芸員であり、地域の自生種に詳しい娘の秀子さんによると、「朝日連峰から月山にかけての地域は貴重な植物の自生地が多いところ。ミズナラの変異種で葉縁が深く切れ込んだハゴロモミズナラや、トガクシジョウマなどの希少種も発見されているんですよ」とのこと。ここ大井沢が、いかに自然豊かな場所であるかが伺われます。

雑木林のスペースは、クリ、ミズナラなどを中心とした落葉樹が多く、そのほとんどが伐採せずに残されています。その間を縫うように作られた木道の曲線が、庭に自然な興行きを与えています。木道の塗料には、植物への影響を考慮して化学製品は使わず、京都から熟成5年ものの柿渋を取り寄せたそうです。



野生の果樹と草花の組み合わせ

雑木林とスペースは野生種を活かすため、スイセンとスノードロップ以外の園芸品種は植えられていません。一方で、雑木林と家屋の間にある芝生のスペースは園芸植物を中心に構成され、雑木林のスペースと対照をなしています。



ここは石の多いススキの原でしたが、石を取り除いて造成し、パーク堆肥と山の土を入れて土壌改良したそうです。芝生に添ったなだらかな小径は、ウィズリーの頒布種子から育てたキャットミントをはじめ、スイートアリッサム、オキナグサ、サンセツウなどで縁取られています。

また、ガーデンにはアスチルベ、シャクヤク、ワレモコウ、ジギタリス、スカビオサ、デルフィニウム、バラなどの草花だけでなく、ハーブや色彩豊かな野菜も植えられ、初夏には雑木林を背景に華やかな風景が展開される予定です。「樹木類の植え付けは、まだこれから。ここは豪雪地帯で冬は雪が3mも積もるので、果樹は栽培品種が育たないのです。その代わりに、ナシやスモモの野生種があるので、それを植えようかと考えています」と武波さん。来年の春は、野生の果樹と宿根草類の組み合わせが見られるかもしれません。

植物と人が共存する庭

2,400坪という面積は、個人庭園としてはかなり広大で、管理には多大な時間と労力が費やされます。週に3日は庭仕事のために閉園し、早朝から日暮れまで苗づくり、除草、植え込み、材料調達と、休みなく作業が続けられています。公的な援助を受けたらどうか、という意見もありましたが、武波さんはあえて自分達の手で作り上げていく道を選びました。

現在は、親戚、友人、地域の人々の協力のみで庭づくりが行われています。「公的な援助を受けるには、観光スポットとしてのPRが条件となってきます。この庭の目的は、地域の植物と私達が共存して暮らすこと。本当に植物の好きな人だけがここを訪れて、なにを感じていただければ充分なのです」と武波さん。その気持ちが家族や親戚、周囲の人々の心を

動かし、ガーデンの運営を助けているのでしょう。

どんなスタイルにも媚びない自然を手本とした野生植物の庭づくり。さまざまなオープンガーデンが誕生しつつある昨今、「ミストガーデン」は、私たちに新しい庭のあり方を提供してくれます。「日本の野生植物にとって、少しでもこの庭が役立てば嬉しい」という武波さんの言葉が印象的でした。

〔注1〕 クラインガルデン

市民農園のことで、畑の中に野菜・花・果実を「美的」に植え込むこと。

＜ミスト・ガーデン＞

公開日：金、土、日、月曜日（火～木曜日は休園）

山形県西村山郡西川町大井沢171-7



編集後記

まず、機関誌の発行が遅れてしまい大変申し訳ありません。事務局として深くお詫び申し上げます。

さて、今年度は「山形県農村振興技術連盟」、「山形県農村振興事業連盟」と2つの組織に再編され、それぞれの活動をスタートした年になりました。その中でこの「山形の農業土木」についてもこれまでの白黒B5版での発行から、2色刷りA4版の発行という形に生まれ変わったところです。今後はさらに内容を充実していきたいと思っていますので、会員の皆様のご意見等ありましたら、事務局までお寄せいただければ幸いです。

最後に、投稿いただきましたみなさま、御協力ありがとうございました。

「山形の農業土木」 第119・120号合併号

発行日／平成15年3月31日 発行／山形県農村振興技術連盟・山形県農村振興事業連盟

印刷／樹大風印刷 編集／山形県農村振興技術連盟 事務局